

## 4年3組 外国語活動学習指導案

### 1 単元名 Unit7 What do you want?

### 2 単元について

本題材は、平成 29 年告示の学習指導要領【各言語の目標及び内容等】(1) イ聞くこと (3) ウ話すこと[発表]に基づいて設定する。

#### (1)聞くこと

イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。

#### (3) 話すこと[発表]

ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

### 4 研究内容にかかわって

研究内容 1：教科の本質に基づく「キーワード」の設定及びそれを軸とした授業設計

単位時間ごとの役割（位置付け）に応じたキーワードの設定

本校におけるキーワードとは、「単位時間や単元の学習で、その言葉を意識することにより学びが深まったといえる言葉」である。外国語科部では、キーワードの捉えを「教師が子どもの目指す姿を明確にして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成したり、再構築したりするための言葉」とした。目的の達成に向けて、子どもが表現する情報や考えなどを試行錯誤する過程が、深い学びの実現につながる。そのために、教師は、交流の際に言語面と内容面の指導を行う。

本時では、オリジナルのパフェを作成し、それを紹介する。そのために、選んだ食材と個数の「何をいくつ分」と、選んだ理由にあたる「好み、旬」、相手になぜその食材を選んだか尋ねる「Why」の3種類をキーワードとして設定する。

## 研究内容2：「キーワード」を軸にした指導方法の工夫

### (1)「やってみたい」と思える言語活動の目的や場面、状況等の設定の工夫

何のために、どのような場面で、どのような状況で行われるコミュニケーションであるかを設定することは、外国語を使用する具体的なシチュエーションを児童に思い描かせ、目的をもって取り組むことにつながり、主体的な姿勢を生み出すことができると考える。

言語活動の目的や場面、状況の設定に関して、学習指導要領解説では以下のことが示されている。

外国語活動における言語活動を使用する場面を設定し、実際に言語を使用して互いの気持ちを伝える活動の実現に向けた学習過程に、「①児童が設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う」と示されている。

このことを踏まえて、本単元では、①として、自分で料理を決め、そのための材料を集める。②として、終末の活動のために必要と思われる語句や基本的な表現を様々な活動を通して学習していく。そうした目的の達成のために③については、様々なコミュニケーションの実践を通して、表現の定着を図る活動を仕組む。④視点を設定した振り返りシートを活用し、仲間とのやり取りを通して感じたことや自分の姿の変容を記録したり児童が自らの伸びを実感できたりするようにする。

### (2) 対話を広げていくための英語表現や内容を全体で交流する場 (Share Time) の設定

Share Time は、対話活動の中で、児童の中から生まれたよさや疑問を広めたり、指導したことを意図的に位置付けたりする機会としている。本時の課題達成のため、対話活動に取り組む中で、Share Time を設け、そこで、以下の具体的な方途を意図的に指導している。

①会話の仕方に困っている児童のために、英語表現を全体で再確認する。②課題達成に向けて、言語面と内容面の良い姿を広める。③相手に新しい質問や説明する一言を加えて、会話がより深まるようにする。

6 本時の展開 (3/5時)

<p>本時のねらい</p>	<p>自分で考えたパフェを紹介するために、I want/I like などを用いて相手に伝わるように工夫しながらパフェについて紹介する。(思考・判断・表現)</p>
	<p>本時のキーワード (自分のパフェのよさを伝えるために) 何をいくつか、Why,好み,旬</p>
<p>学 習 活 動</p>	<p>研究にかかわって</p>
<p>1 Hello Time 2 Small Talk ALT と HLT のオリジナルのパフェについて紹介 3 Today' s Aim</p>	
<p>オリジナルのパフェについて紹介しよう。</p>	<p>〈研究内容 1にかかわって〉</p>
<p>4 Challenge Time and Share Time オリジナルのパフェについて紹介 (1) パフェの作成 (2) パフェの紹介</p>	<p>・自分で考えたパフェについて紹介するために、I want/I like などの表現を用いてパフェの具材や理由を伝え合うことを目指す。そのため、伝える方は、何をいくつか必要なのか、ゆっくりとはきはきと話す。聞く方は、相手に感想を伝えるなどして、相手に配慮しながらコミュニケーションを図る。</p>
<p>A:This is my parfait. I want (a banana). I want (two melons). I want (a pineapple).・・・ I like apples. I want many apples. 冬の旬だから、I want (kiwi fruits). B:It's (nice,cute)! AB:Change</p>	<p>〈研究内容 2にかかわって〉</p>
<p>&lt;Share Time1&gt; ・紹介する方法に困っている子どものために、英語表現を全体で確認する。 ・選んだ理由を付けて紹介している子を紹介する。 &lt;Share Time2&gt; ・紹介するための英語表現が定着していない児童のために、再度確認する。 ・「Why」などの交流が深めるような質問の英語表現を確認する。 ・相手から聞いた興味深い理由を交流する。 &lt;Share Time3&gt; ・交流を深めるための良い英語表現や疑問を解決するための英語表現などを確認する。 ・スクランブル交流の前に、「これは誰のパフェでしょうクイズ」を行う。</p>	<p>・活動の目的を「自分で考えたパフェについて紹介する」と設定し、児童が、目的意識をもち意欲的に活動したり、伝える相手がいることで、相手意識をもって活動したりできるようにする。</p> <p>・児童がどのようなことを伝えようとしているかをあらかじめ予想しておき、児童の様子を見ながら Share Time で何を広めたり、確認したりするかを準備する。</p>
<p>5 Comment Time</p>	<p>評価規準</p>
<p>・英語でパフェについて紹介することができて良かった。 ・仲間のパフェについて知ることができて良かった。 ・自分で考えたパフェを作ってみたい。</p>	<p>自分で考えたパフェについて紹介するために、相手に伝わるように工夫しながら紹介している。 【思考・判断・表現】 (行動観察・振り返りシート)</p>

## 6年2組 外国語科学習指導案

1 単元名 Lesson5 Where do you want to go ?

2 単元について

本単元は、学習指導要領では、次のように設定されている。

(1) 聞くこと

ア ゆっくりとはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。

(2) 話すこと[やりとり]

ウ 自分や相手のこと及び身の回りのものに関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

(3) 話すこと[発表]

イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

(4) 書くこと

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

#### 4 研究内容にかかわって

##### 研究内容1：教科の本質に基づく「キーワード」の設定及びそれを軸とした授業設計 単位時間ごとの役割（位置づけ）に応じたキーワードの設定

本校におけるキーワードとは、「単位時間や単元の学習で、その言葉を意識することにより学びが深まったといえる言葉」である。外国語科部では、キーワードの捉えを「教師が目指す姿を明確にして、目的や場面、状況に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成したり、再構築したりするための言葉」とした。目的の達成のために、子どもが表現する情報や考えなどを試行錯誤する過程が深い学びであると考え。そのために、交流の際に言語面と内容面の指導を行う。

本時では、自分の行きたい国を相手のニーズに合わせて紹介する活動を行う。相手のニーズは何かを考えさせるには、Do you like～? What food do you like～?の表現を使うことを子どもが気付けるようにするとともに、相手のニーズに合った、国を紹介していけるようにしたい。また、人に伝えるには、相手に気にいってもらえるように推す力が必要だと考える。また、内容を詳しくして伝えることは重要だと考える。そこで、本時のキーワードを「相手のニーズにあっているか、推し力、内容」と設定した。

##### 研究内容2：「キーワード」を軸にした指導方法の工夫

###### (1)「やってみたい」と思える言語活動の目的や場面、状況等の設定の工夫

何のために、どのような場面で、どのような状況で行われるコミュニケーションであるかを設定することは、外国語を使用する具体的なシチュエーションを子どもに思い描かせ、目的をもって取り組むことにつながり、主体的な姿勢を生み出すことができると考える。

言語活動の目的や場面、状況の設定に関して、学習指導要領解説では以下のことが示されている。

外国語活動における言語活動を使用する場面を設定し、実際に言語を使用して互いの気持ちを伝え合う活動の実現に向けた学習過程に、「①子どもが設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う」と示されている

このことを踏まえて、本単元では、①として、テーマを決めておすすめの国を紹介するプランを作る。②として、終末の活動のために必要と思われる語句や基本的な表現を様々な活動を通して学習していく。そうした目的の達成のために③については、様々なコミュニケーションの実践を通して、表現の定着を図る活動を仕組む。④視点を設定した振り返りシートを活用し、仲間とのやり取りを通して感じたことや自分の姿の変容を記録したり子どもが自らの伸びを実感できたりするようにする。

###### (2)対話を広げていくための英語表現や内容を全体で交流する場（Share Time）の設定

Share Time は、対話活動の中で、子どもの中から生まれたよさや疑問を広めたり、指導したことを意図的に位置付けたりする機会としている。対話活動に取り組む中で、Share Time を何度か設け、本時の課題達成のための具体的な方途を意図的に指導している。

6 本時の展開 (7/8時)

<p>本時のねらい</p>	<p>自分のおすすめの国を紹介する活動を通して、星3つをとるためにはどうすればよいかを考え、相手に伝える。(思考・判断・表現)                  本時のキーワード                  (自分のおすすめの国を紹介するために)相手のニーズにあっているか、推し力、内容</p>
<p>学 習 活 動</p>	
<p>1 Hello Time 挨拶をする                  2 Small Talk: 本時の言語活動を HRT が掲示する。                  HRT の発表 (写真なし)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Please visit Spain.                      You can enjoy many seafood dishes.                      You can see many beautiful place.                      It's great. Thank you.</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ALT の評価                  推し力 ☆1 内容 ☆1 ニーズ ☆1                  星の数を増やすにはどうすればよいか?</p> <p>3 Today's Aim</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3つ星をもらうために、自分の推し活プランの魅力を紹介しよう。</p> </div> <p>キーワード掲示                  ①相手のニーズにあっているか                  ②内容 You can ~.                  ③推し力 熱量、目線、表情、写真など</p> <p>4 Challenge Time and Share Time                  ペア (横) (推し力 2 内容 2 ニーズ 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が3つ星をとるためにどんなことをすればよいかを考え、文章を修正する。</li> <li>スクランブル交流を行う。必要があれば、修正をして対話活動をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A: Please visit Spain.                      A: You can eat seafood dishes. It's delicious.                      A: You can enjoy Togyu. Do you like Togyu?                      B: No, I don't.                      A: Oh, really? Do you like soccer?                      B: Yes, I do. I like soccer.                      A: Spain is strong.                      B: I see.</p> </div> <p>5 Comment Time</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふりかえりを書く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>目線を上げて相手に伝わるようなスピードで話すと、推し力の星の数が増えたので、嬉しかった。</li> <li>その国でできることを数文増やして、詳しく言うことで、内容の星の数が増えた。</li> <li>相手のニーズに合っていないときは、話す内容を変えて相手のニーズに合わせた話をするので、星の数が増えた。</li> </ul> </div>	<p style="text-align: center;">研究にかかわって</p> <p>〈研究内容1にかかわって〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元を通して、推し力、内容、相手のニーズあっているかの3つの視点を意識して授業をしてきたので、子どもからキーワードを言わせたい。</li> <li>HRT が発表したことに対するALTの評価は妥当であるか妥当でないかを問いかける。どうするとよいかは議論しない。</li> <li>share timeの時に、キーワードに立ち返り、文章を正しく伝えるように伝えること、You can ~.の表現を増やすことなどが星を増やす上で大切であることを確認する。わからない子はペアに聞く。それでもわからなければ、教師と考える。</li> </ul> <p>〈研究内容2にかかわって〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ニーズにあった話ができているかを確認する。話題をいくつか用意しておくことで、相手のニーズに合わせた紹介ができるようにする。</li> <li>英語が苦手な子どもは3つの視点を頑張るのではなく、目線を上げて話すことや、写真を付け加えて分かりやすくするなど本人ができそうなことをやらせていく。できたことを価値付けていく。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価規準</p> <p>【話す(発表)】                  3つ星をもらうために、何が必要かを考えて、おすすめの本国を伝え合っている。</p> <p>【思考・判断・表現】                  (行動観察、プリント)</p> </div>

# かがやき1教室 自立活動学習指導案

1 単元名 めざせ学習名人 パート2

4 本時の展開 (5/6時)

全体のねらい	自分のめあてを確かめ、2つの活動を通して、相手を見て聞いたり、相手に聞こえる声で話したりすることのよさを実感することができる。	
個別のねらい	2 児童の実態 参照	
本時のキーワード	A:【相手を見て】	B:【相手に聞こえる声で】
学習活動	〇めあてにかかわる個別の手立て	研究にかかわって
1 本時の学習課題を読んで、見通しをもつ。 学習名人になろう		<p>〈研究内容1にかかわって〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の学習で、自身の課題に気付けるように児童とのかかわりを深めてきた中で、児童自身が話した言葉や、教師とのやりとりの中で出た言葉をキーワードとする。</li> <li>・学習課題、自分のめあて(キーワード)が意識できるよう、短い言葉で板書する。</li> <li>・活動ごとに達成できたらシールを貼ることで、達成度が視覚的に分かるようにする。</li> <li>・学習カードに毎時間の達成度や振り返りを記入し掲示することで、2週間に1回しかないグループ授業の思考をつなげるようにする。</li> <li>・学習名人パート1で使ったキーワードは、今後の生活に生かすアイテムとして掲示し、定着を目指す。</li> </ul>
2 前時の学習名人カードを見て、今日のめあてをもつ。 ・相手を見て聞くよ。 ・相手に聞こえる声で話すよ。 ・間違えてもスーハーするよ。		<p>〈研究内容2にかかわって〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手意識をもつために、相手を見ていないとあいこが出せなかったり、じゃんけんぼんの後に「ぼん」と声を出したりする活動を仕組む。</li> <li>・前半に体を動かす活動を取り入れ、心と体をほぐし、活動に入りやすくする。</li> <li>・「〇〇さんと同じで」「△△さんと違って」と話すルールにすることで、相手の話を聞く必然を作る。</li> <li>・繰り返し同じような流れで学習を進めることで、見通しをもって、安心して取り組めるようにする。</li> <li>・落ち着いて話を聞くために、聞く位置が分かるように印を付けて示す。</li> <li>・安心して話せるように、話型を視覚的に示す。</li> </ul>
3 「学習名人じゃんけん」を行う。 ① めあてやルールの説明を聞く。 ・あいこじゃんけんを行う。 ・慣れれば、後出しじゃんけんを行う。 ・運動の場で身体全体を使い、心と体をほぐす。 ○最後まで開けるように短く区切って説明する。(A) ○皆に聞こえる声で返事ができたら、認める。(B) ② 「じゃんけんぼん」という教師のかけ声を聞き、教師の手を見てあいこになるようにじゃんけんする。 ③ 慣れたら、勝つようにじゃんけんする。 ○聞いて正確に出せたら「よく聞いて出せたね。」と認める。(全) ○間違えるかもしれないことを予告し、間違えそうになったり、間違えてしまったりしたときに、どう気持ちを切り替えるか、事前に相談しておく。(A)		
4 「好きなのどっちすごろく」を行う。 ① めあてとルールを聞く。 ○知っていることを話そうとすることが予想されるので、「最後まで聞くよ。」と声をかける。(A) ② すごろくのマスに、2つの同じカテゴリーのものの中から1つを選んで好きな理由を話すよう指示があるので話す。 ・「どうしてかという～だからです。」「〇〇さんと同じで」「△△さんと違って」という話型を使って話す。 ○今日の個別のめあてを事前に確かめ、即時評価し、相手を見るよさ、相手に聞こえる声のよさを伝える。(全) ○どちらも好きではないときは、ゲームなのでどちらかを選ぶか、「どちらも好きではありません。」と話しても大丈夫だと伝えておく。(全)		
5 本時の学習を振り返る。 ① 学習カードに◎・○・△で評価する。 ② がんばったことや楽しかったことを話し、書けそうなら書く。 ○相手を見て聞くと、じゃんけんを間違えなかったり、相手の話がよく分かって楽しめたりするなどのよさがあることが実感できるように、言語化して伝える。(A) ○相手に聞こえる声で話すと分かってもらえて、「同じだね。」「あれ、おいしいよね。」などと相手からも話してもらえて楽しくなるなどのよさがあることを実感できるように、言語化して伝える。(B)		

## かがやき2教室 自立活動学習指導案

1 単元名 めあてにむかってレッツ・トライ

#### 4 本時の展開 (8/11時)

<p>全体のねらい</p>	<p>個々のめあてを意識して「言葉ブロック」や「卓球」に取り組む活動を通して、自分や仲間のよさががんばりに気付き、みんなと楽しく活動することができる。</p>	
<p>個別のねらい 2 児童の実態 参照</p>		
<p>本時のキーワード A:【分かりやすく】 B:【声かけ】 C:【話している人を見て】</p>		
	<p>学習活動 ○めあてにかかわる個別の手立て</p>	<p>研究にかかわって</p>
<p>1 本時の活動の流れと個々のめあてを確認して見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>自分のめあてを意識して、みんなと楽しく活動しよう！</p> </div> <p>① キーワードをもとに、本時のめあてを自分で決める。</p> <p>② 個々のめあてを確認する。</p> <p>○今年度のめあてから作ったキーワードと「なかよくするコツ」のキーワードから本時に合ったキーワードを精選して示し、選べるようにする。(全)</p> <p>A:「作戦を立てよう」のときに、分かりやすく自分の考えを話す。</p> <p>B:「言葉ブロック」のときに、仲間がたくさん声をかける。</p> <p>C:「作戦を立てよう」のときに、話している人を見て話を聞く。</p> <p>2 「言葉ブロック」の作戦を立てる。</p> <p>① 前回の活動の様子を振り返る。</p> <p>○前回の様子が分かるような視覚資料を用意する。(全)</p> <p>② 今回のチャレンジと活動内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>前よりもたくさん4文字の言葉を作ろう！</p> </div> <p>○活動内容を視覚的に示しながら話す (C)</p> <p>③ リーダーが司会をして作戦を立てる。</p> <p>○リーダーの話し方や話し合いの流れが分かる資料を用意する。(C)</p> <p>○分かりやすい話し方の資料を用意する。(A)</p> <p>3 「言葉ブロック」をする。</p> <p>① 制限時間8分間で、4文字の言葉をたくさん作る。</p> <p>○仲間に声をかけている姿を価値付ける。(全)</p> <p>③ みんなで作った言葉と数を確認する。</p> <p>④ 仲間のよさを伝え合う。</p> <p>○仲間の様子を見て、声をかけていた姿を価値付ける。(B)</p> <p>○仲間のよさを見つけた児童を価値付ける。(全)</p> <p>⑤ 言葉ブロックを片付ける。</p> <p>4 「卓球」をする。</p> <p>① 3点交代で点を取られた人が交代し、審判をする。</p> <p>○ルールが分かりづらい場面があれば、みんなでルールを確認する。(全)</p> <p>○負けても怒らず、相手のよい姿を認める姿を価値付ける。(A)</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>① 仲間から見た自分のよさを思い出し、めあての振り返りを学習カードに書く。</p> <p>② 自分の振り返りを発表する。</p> <p>○教師から、個々のめあてに対してがんばっていた姿を伝え褒める。(全)</p>	<p>〈研究内容1にかかわって〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度のめあてを達成するためのキーワードを考え、その言葉の中から本時のめあてを決める。また、今までのグループ活動の中で見付けた「なかよくするコツ」を掲示しておき、その中からキーワードを選んでもよいことにする。</li> <li>・めあてをどの活動で意識するかを考えて、自分のめあてを決める。その活動が終わった後に、仲間から見た自分のよさを聞くことで、自分のよさをさらに実感できるようにする。</li> </ul> <p>〈研究内容2にかかわって〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉ブロック」では、8分間で4文字の言葉をできるだけたくさん作る。みんな協力して取り組む活動を取り入れる。</li> <li>・リーダーが司会をして、みんなで作戦を話し合う場面を設定する。</li> <li>・単元を進めていく中で、2文字、3文字、4文字と作る言葉を増やしたり、途中から促音や拗音を言葉ブロックの中に入れてたりして意欲を継続できるようにする。</li> <li>・Aの実態から、個別学習の時に楽しんで練習している「卓球」の試合をグループ活動で行い、勝敗よりも活動そのものを楽しむことを経験できるようにする。</li> <li>・卓球のルールを仲間と一緒に決め、意欲的に活動できるようにする。</li> </ul>	

## なかよし1組 生活単元学習指導案

1 単元名 ひまわりのたねをプレゼントしよう

4 本時の展開 (4/13時)

<p>全体のねらい</p>	<p>「ひまわりのたね」のプレゼント作りに取り組むことで、【丁寧】【協力】というキーワードを意識して活動すると、渡す相手が喜んでくれるプレゼントができるということに気付き、主体的にプレゼント作りに取り組むことができる。</p>
<p>個別のねらい 2 児童の実態 参照</p>	
<p>本時のキーワード 【 】は本時のキーワード 「 」は個別のめあての言葉          【丁寧】・・・「おすじびったり・つめアイロン」          【協力】・・・「伝える・自分で選ぶ・ひとりでやりきる・目で合図・声かけ・分担をやりきる」</p>	
<p>学習活動 ○めあてに関わる個別の手立て</p>	<p>研究にかかわって</p>
<p>1 本時の課題を確認し、自分の願いやがんばるめあてを発表する。          〇もらって嬉しいプレゼントを作ろう。          ○本時のめあて達成のためのキーワードとそれに沿った具体的な行動を提示し、自分のめあてを決めることができるようにする。(全体)</p> <p>2 ひまわりの種のプレゼント作りの準備をする。          ○自分から準備している姿を価値付ける。(B)</p> <p>3 プレゼント作りをする。          自分の作るものを確認し、ライン工程作業でプレゼント作りを行う。          ① 種を3粒ずつ選ぶ。          ② 選んだ種を、折り紙のポチ袋に入れる。          ③ 種が入ったポチ袋にシールを貼る。          ○見通しをもち、自分で作れるように手順を示す。また、活動中は教師が必要に応じて共に活動する。(AC)          ○正確に数えることができるように、10個ごとのマス目を用意する。(A)</p> <p>4 片付けをする。          ○進んで片付けに取り組む姿を価値付ける。(B)</p> <p>5 本時の学習を振り返る。          ○安心して発表できるように教師が傍に付く。(A)          ○自分から準備や片付けに協力して取り組む姿を価値付ける。(B)          ○めあてにかかわって、がんばったことをキーワードにつなげて評価し、達成できたことを価値付ける。          ・最後まで丁寧にがんばることができた。(A)          ・仲間の様子を見て、手伝うことができた。(B)          ・分担した仕事を、時間いっぱいやり遂げて、たくさん作れた。(C)</p> <p>○一人一人のめあてに向かう姿を価値付け、「もらって嬉しい」につなげたことを実感できるようにする。(全)</p>	<p>〈研究内容1にかかわって〉          ・「なかよしひまわりの種をみんなにプレゼントしたい」という願いを実現するために、「計画」→「準備」→「活動」→「振り返る」という単元構成で願いが高まるようにする。          ・めあてを決める際に「キーワード」につながる具体の姿を写真で提示することで、本時の自分のめあてをもてるようにする。また、名札ボードに自分のめあてを視覚的に位置付ける。          ・全体のねらいと「キーワード」と本時の自分のめあてにつながっていることがわかるように、構造的に板書する。</p> <p>〈研究内容2にかかわって〉          ・見通しをもって活動に取り組めるように、板書に活動内容を掲示する。          ・台車に載せて走らせる活動を用意することで、自然に「いくよ」「いいよ」と仲間に声をかけられるようにする。          ・振り返りで、めあてを意識して活動できた姿を視覚的に示し、「キーワード」と結び付けて価値付ける。          ・出来上がったプレゼントの数を掲示し、活動の成果が目に見えるようにすることで、がんばりを実感できるようにする。</p>

なかよし4組 自立活動学習指導案  
1 単元名 自分を知ろう② (大ピンチ編)

4 本児の展開 (5/6時)

<p>全体のねらい</p>	<p>自分の大ピンチレベルクイズを出し合い、自分や仲間がどんな場面でどんな言動を、どれくらいしていたかを想起しながら、回答を考えたり仲間の考えを聞いたりすることを通して、自己理解を深めることができる。</p>	
<p>個別のねらい</p>	<p>2 児童の実態 参照</p>	
<p>本時のキーワード</p>	<p>【私（ぼく）が見た私（ぼく）】【私（ぼく）から見た〇〇さん】 【場面】【言葉】【行動】【表情】</p>	
<p>学習活動</p>	<p>〇めあてにかかわる個別の手立て</p>	<p>研究にかかわって</p>
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <p>自分の大ピンチレベルクイズを出し合って、自分についてもつと知ろう。</p> <p>① 本時のめあてと活動内容を確認する。</p> <p>② キーワードをもとに、クイズに正解するためには、仲間のどのような姿を考えればよいかを確かめる。</p> <p>〇キーワードを黒板に位置付け、仲間のどのような姿を考えるとよいかを確かめることで、活動の見通しをもてるようにする。(全)</p> <p>2 ウォーミングアップをする。</p> <p>・先生の大ピンチレベルを見て、どの先生か考える。</p> <p>〇タブレット端末を使わずに全員がスクリーンを見て考えたり話したりすることで、気楽に交流する雰囲気をつくる。(全)</p> <p>3 自分クイズを出し合う。(2人が1問ずつ出題する。)</p> <p>〇「自分が考える自分」と「仲間が考える自分」を区別して話すようにすることで、自他での認識の違いを意識できるようにする。(全)</p> <p>① 自分の大ピンチレベルクイズを出す。</p> <p>② シンキングタイム</p> <p>・回答者は、質問があれば「どんな場面で、どんな言動を、どれくらいした」のかを尋ねることができる。</p> <p>〇どんな場面で、どんな言動や表情をしていたのかなど、キーワードに沿った視点で考えるように声をかける。(AC)</p> <p>〇発言の意図を確かめ、単語で話したことを教師が文にして言い直したり、本児が復唱したりすることで適切な言語化を促す。(B)</p> <p>〇具体的な場面を示すことで、仲間の姿を想起できるようにする。(D)</p> <p>③ 仲間の大ピンチレベルクイズを「ロイロノート」で作成し、全員が提出後、教師が提出箱を公開する。</p> <p>・回答者は決めた理由を話す。</p> <p>〇どんな場面で、どんな言動や表情をしていたかなど、キーワードに沿った視点で話せたら、即時評価する。(全)</p> <p>〇教師が質問したり、補足したりして、より詳しく話せるようにする。(全)</p> <p>④ 出題者が、答えと大ピンチレベルを決めた理由を話す。</p> <p>⑤ トーキングタイム (感想を交流する。)</p> <p>〇仲間の考えを聞くことで、物事の捉え方に程度があることに気付けるように声をかける。(A)</p> <p>〇「自分から見た自分」「仲間から見た自分」にずれがあることに気付くように声をかける。(B)</p> <p>〇「仲間から見た自分」について考えられるように声をかけることで、自分を客観的に見るようにすることができるようにする。(C)</p> <p>〇自分の大ピンチについて仲間と一緒に考えることで、自分について客観的に考えることができるようにする。(D)</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>① 自分や仲間について考えることができたかを、キーワードと結び付けて振り返る。</p> <p>② 大ピンチレベルクイズに挑戦して、思ったことや考えたことを発表する。</p>	<p>① 本時のめあてと活動内容を確認する。</p> <p>② キーワードをもとに、クイズに正解するためには、仲間のどのような姿を考えればよいかを確かめる。</p> <p>〇キーワードを黒板に位置付け、仲間のどのような姿を考えるとよいかを確かめることで、活動の見通しをもてるようにする。(全)</p> <p>2 ウォーミングアップをする。</p> <p>・先生の大ピンチレベルを見て、どの先生か考える。</p> <p>〇タブレット端末を使わずに全員がスクリーンを見て考えたり話したりすることで、気楽に交流する雰囲気をつくる。(全)</p> <p>3 自分クイズを出し合う。(2人が1問ずつ出題する。)</p> <p>〇「自分が考える自分」と「仲間が考える自分」を区別して話すようにすることで、自他での認識の違いを意識できるようにする。(全)</p> <p>① 自分の大ピンチレベルクイズを出す。</p> <p>② シンキングタイム</p> <p>・回答者は、質問があれば「どんな場面で、どんな言動を、どれくらいした」のかを尋ねることができる。</p> <p>〇どんな場面で、どんな言動や表情をしていたのかなど、キーワードに沿った視点で考えるように声をかける。(AC)</p> <p>〇発言の意図を確かめ、単語で話したことを教師が文にして言い直したり、本児が復唱したりすることで適切な言語化を促す。(B)</p> <p>〇具体的な場面を示すことで、仲間の姿を想起できるようにする。(D)</p> <p>③ 仲間の大ピンチレベルクイズを「ロイロノート」で作成し、全員が提出後、教師が提出箱を公開する。</p> <p>・回答者は決めた理由を話す。</p> <p>〇どんな場面で、どんな言動や表情をしていたかなど、キーワードに沿った視点で話せたら、即時評価する。(全)</p> <p>〇教師が質問したり、補足したりして、より詳しく話せるようにする。(全)</p> <p>④ 出題者が、答えと大ピンチレベルを決めた理由を話す。</p> <p>⑤ トーキングタイム (感想を交流する。)</p> <p>〇仲間の考えを聞くことで、物事の捉え方に程度があることに気付けるように声をかける。(A)</p> <p>〇「自分から見た自分」「仲間から見た自分」にずれがあることに気付くように声をかける。(B)</p> <p>〇「仲間から見た自分」について考えられるように声をかけることで、自分を客観的に見るようにすることができるようにする。(C)</p> <p>〇自分の大ピンチについて仲間と一緒に考えることで、自分について客観的に考えることができるようにする。(D)</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>① 自分や仲間について考えることができたかを、キーワードと結び付けて振り返る。</p> <p>② 大ピンチレベルクイズに挑戦して、思ったことや考えたことを発表する。</p>	<p>&lt;「研究内容1にかかわって&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードをもとに、今回の活動で大切なことを確かめ、自分や仲間について考えるための見通しをもち、主体的に取り組めるようにする。</li> <li>・「めあて」「キーワード」「活動」「振り返り」の繋がりを児童が意識できるように構造的に板書に示す。</li> <li>・自分と仲間の回答が一致した項目、ずれた項目に着目させ、その理由を考えることで自分への理解を深めることができるようにする。</li> </ul> <p>&lt;「研究内容2にかかわって&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもって活動できるように、板書に活動内容を掲示し、繰り返し同じ流れで学習を進める。</li> <li>・席をコの字に配置することで、親密な雰囲気を作り、楽しく活動できるようにする。さらに、出題者が前に出て、教師は出題者の席に座ることで、仲間を意識して話すことができるようにする。</li> <li>・仲間の大ピンチを共感的に聞き、次の単元(対策編)につながるように声をかける。</li> <li>・一人一人に、基本的な話し方を示したカードを渡し、自信をもって話せるようにする。</li> <li>・「ロイロノート」の提出箱を利用することで、自分と仲間の回答を同時に見比べ、気付きや感想をもちやすくする。</li> <li>・個人のタブレット端末を使う時と使わない時を明確にし、適切に使うことができるようにする。</li> </ul>

## なかよし2組 生活単元学習指導案

- 1 単元名 なかよしゲーム屋さんへようこそ！

### 3 単元について

6月には「なかよし運動会」に取り組み、仲間とともに「ピンポン障害走（個人競技）」「玉運びリレー（ペア競技）」「玉入れ（集団競技）」などの競技に取り組む活動を通して、【協力】【切り替え】【自信をもって】などのキーワードを意識すると、みんなで楽しく活動できることを実感し、自分なりの方法で仲間とかかわることができた。事後の活動では、なかよし1・3組を招待し、「なかよし運動会」で一緒に活動することで、相手に喜んでもらえて嬉しいという思いも味わっている。

本単元では、「なかよしゲーム屋さん」を開き、自分たちで準備した「ゲーム屋さん」になかよし学級の仲間や通常学級の仲間を招待し、お店屋さんとして活動する。【協力】【相手を意識する】などのキーワードを意識するとお客さんに楽しんでもらえるゲーム屋さんになることを実感し、自分の役割を果たしたり、お客さんを意識したかかわり方をしたりすることをねらっている。

「ゲーム屋さん」を題材に選んだ理由は、大きく2点である。昨年度なかよし3組（知的6年）に「なかよしゲーム屋さん」に招待してもらい、お客さんとして楽しめた経験があることからお店屋さんのイメージをもちやすい点、「ゲームに必要な道具を制作する」「相手に伝わるように説明する」「得点を数える」など、各教科の学習と関連を図りながら学習活動を仕組むことができる点である。

単元の導入では、昨年度なかよし3組が招待してくれた「ゲーム屋さん」やお祭りの屋台、フレンズ活動の遊びなどの経験を想起し、「自分たちでもゲーム屋さんを開き、お客さんを招待して楽しんでもらいたい」という願いをもつ。そして、ゲームの内容を考えたり、ゲームや看板、景品などをグループで協力して準備したりしていくことで、願いがより高まっていく。まずは、自分たちでお店屋さんとお客さんに分かれて練習し、さらに「なかよしゲーム屋さん」を開いてお客さんを招待する活動を繰り返すことで、見通しをもち主体的に活動したり、自分のめあてを意識して仲間とかかわりながら活動したりできるようにしていく。単元の出口では、単元を通してがんばったことや成長をキーワードと関連付けて確かめ、日常生活の他の場面でも意識して活動しようという思いがもてるようにしていきたい。

### 4 研究内容にかかわって

#### 1 教科の本質に基づく「キーワード」の設定及びそれを軸とした授業設計

##### (1) 児童の実態に基づく「キーワード」の設定

生活単元学習は、児童が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的、体系的に体験することで、自立や社会参加に必要な事柄を学習するものであり、実際の生活上の目標や課題に沿っていくことが大切である。特別支援教育部の生活単元学習における「キーワード」を「活動の願いの実現を図るために必要な価値や視点」と捉えている。また、それは、その単元のみならず実生活に生かすことができる「汎用できる言葉」とあると考える。そこで、本単元では「キーワード」を【協力】【相手を意識する】とした。一言で【協力】と言っても、その具体的な姿はさまざまである。例えば「声をかける」「応援する」「役割を果たす」「一緒に」など、具体的行動を示すものを「本時の個々のめあて」として選択し、活動をする中で具体的な姿で即時評価したり、終末の振り返りでめあての姿と「キーワード」とを関連付けて価値付けたりすることで、キーワードを意識して生活できるようになると考える。

##### (2) 子どもの思考をつなぎ、達成感や学びの広がりが味わえる学習活動計画の工夫

単元の導入では、昨年度なかよし3組が招待してくれた「ゲーム屋さん」やお祭りでの屋台の経験を想起し、「自分たちもお客さんが楽しんでくれるようなゲーム屋さんを開き、招待して楽しんでもらいたい」という願いをもつ。「どんなゲーム屋さんにしたいか」を問うことで、「お客さんが楽しめる」「分かりやすい遊びやルール」「お店の仲間と協力する」「てきぱき準備する」など、キーワードやめあてとなる言葉を児童と共有していく。準備では、ゲームの内容を考えたり、ゲームや看板をグループで協力して準備したりしていくことで、「なかよしゲーム屋さん」への意欲を高めていく。準備の後には試しの活動を位置付け、自分たちでお店屋さんとお客さんに分かれて練習し、その後、実際になかよし学級や通常学級の仲間を「なかよしゲーム屋さん」に招待して繰り返し活動することで、「めあてを意識して活動して、お客さんに楽しんでもらえて嬉しい」と実感できるようにしていく。単元の出口では、単元を通してがんばったことや成長を確かめ、日常生活の他の場面でも意識して活動しようという思いがもてるようにしていく。

## 2 「キーワード」を軸にした指導方法の工夫

### (1) 「めあて」を意識し達成できる学習活動，環境設定，指導・援助の工夫

#### ・めあてを自然に意識できる学習活動

ゲーム屋さんは、グループで準備をするため、必然的に仲間と一緒に制作していく。また、お店屋さんとして活動する際には、ルール説明役、タイマー役、補助役など、役割を決めて進行をする。ゲームをするお客さんという相手も意識して準備する必要もある。本時は、「お店屋さん」と「お客さん」になり、それぞれのゲーム屋さんで遊ぶが、「お客さん」も経験することで、「お店屋さん」の動きを客観的に見たり、「お客さん」の気持ちを味わったりし、相手を意識することの大切さを実感できるようにしたい。

#### ・めあてが達成できる環境構成

グループは、個の実態を踏まえて意図的に仕組む。また、ゲーム屋さんのゲームは、協力して遊ぶゲーム内容にし、お客さんとしても、仲間と必然的にかかわることができるようにする。

#### ・めあてを達成し、実感できる指導・援助

活動の中でめあてを意識して活動している姿を即時評価する。さらに、振り返りで自分のがんばりや仲間のよい姿を交流する際に、教師が、めあてを意識して活動する姿を写真や動画で視覚的に示し、「キーワード」と結び付けて価値付けることで、成就感や達成感が感じられるようにする。さらに、累積掲示に残したり、単元の終末に振り返ったりすることで、単元を通じた自分の成長を実感できるようにする。

6 本時の展開 (10/18時)

<p>全体のねらい</p>	<p>互いのゲーム屋さんで試しに遊ぶ活動を通して、【協力】【相手を意識する】のキーワードを意識すると、お客さんが楽しめるゲーム屋さんができることに気づき、仲間と協力して「お店屋さん」を進行したり、「お客さん」として楽しくゲームに取り組んだりすることができる。</p>	
<p>個別のねらい</p>	<p>2 児童の実態 参照</p>	
<p>本時のキーワード</p>	<p>【協力】・・・「役割を果たす・声をかける・応援する・一緒に・てきぱき動く」 【相手を意識する】・・・「声の大きさ・速さ・姿勢・言葉遣い・相手を見る・待つ」</p>	
	<p>学習活動 ○めあてにかかわる個別の手立て</p>	<p>研究にかかわって</p>
<p>1 本時の課題を確認し、自分の願いやがんばるめあてを発表する。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ゲーム屋さんを開いて、お互いのゲームで遊んでみよう。</span>          ○キーワードとそれに沿った具体的な行動を写真や言葉で示し、自分のめあてを決めることができるようにする。(全)           2 各自のゲーム屋さんの準備をする。          ・ゲーム屋さんの場の設定、看板などを準備する。          ○グループの仲間の誘いに応じて準備している姿を価値付ける。(B)          ○ゲーム屋さんの準備をてきぱき行っている姿を価値付ける。(G)          ○グループの仲間に声をかけて活動している姿を価値付ける。          (ACDEF)           3 順番にゲーム屋さんを開き、「お店屋さん」「お客さん」に分かれて活動する。          ・お店屋さん→ルールを説明し、協力してゲームを進行する。          (役割・・・ルール説明、タイマー、応援補助など)          ・お客さん→ゲームを体験し、遊んだ後、感想やよかったところを話す。           (お店屋さんとして)          ○お客さんを意識して、声の大きさや速さ、体の向きに気を付けるよう声をかけ、できている姿を価値付ける。(ADEF)          ○必要に応じてセリフカードを活用するよう声をかける。(CE)          ○自分の役割を理解し、見通しをもって仲間と一緒に活動している姿を価値付ける。(BG)          (お客さんとして)          ○お客さんを意識して話したり、仲間と協力してゲームを進めたりできているか、お店屋さんの様子を確かめながら活動するよう声をかける。(ACDEF)          ○ゲームに誘い、一緒に楽しく活動できた姿を価値付ける。(BG)          ○ゲームの感想や仲間のよかったところに気づき、伝える姿を価値付ける。(全)           4 片付けをする。           5 本時の学習を振り返る。          ・自分ががんばれたことや仲間のよかったところを発表する。          ○具体的に話せるよう、めあてを意識した姿を視覚的に示す。(全)          ○仲間のよかったところを発表する姿を価値付ける。(ADEF)          ○がんばりを自分で伝えられる姿を価値付ける。(BCG)          ○一人一人がめあてを意識して活動できたことが「お客さんが楽しめるゲーム屋さん」につながっていることを価値付ける。また、「キーワード」の姿が日常生活の場面とつながっていることを実感できるような具体的なエピソードを話す。(全)</p>	<p>〈研究内容1にかかわって〉          ・「お客さんが楽しめるようなゲーム屋さんをみんなで開きたい」という願いの実現のために、「計画」→「準備」→「活動」→「振り返る」という単元構成で願いが高まるようにする。          ・全体のねらいと「キーワード」と本時の自分のめあてがつながっていることが分かるように、構造的に板書する。          ・「キーワード」をカードにして個別のめあてを立てるときに選択することで、自然とキーワードも意識できるようにする。           〈研究内容2にかかわって〉          ・ゲーム屋さんでは、お店をグループで準備したり、協力して遊ぶゲーム内容にしたりすることで、仲間と必然的にかかわることができるようにする。          ・見通しをもって安心して取り組めるように板書に活動内容を掲示したり、活動場所に目印を付けたり、お店屋さんのセリフカードを準備したりする。          ・相手の立場に立って考えられるように「お店屋さん」と「お客さん」の両方を全員が経験する。          ・振り返りで、めあてを意識して活動する姿を写真で視覚的に示し、「キーワード」と結び付けて価値付けたり、累積掲示に残したりすることで、成長を実感できるようにする。</p>	

# なかよし3組 自立活動学習指導案

1 単元名 「いっしょパワー」チャレンジ

### 3 単元について

本単元は、普段の自分たちの様子や映像資料を通して、仲間と一緒に活動するために大切なキーワード【協力】【切り替え】【ルール】を考え、それらを意識してゲームに取り組むことで、自分に合った具体的な姿で実践したり、仲間と一緒に活動する楽しさを実感したりすることを目的としている。

単元の初めには、次の3点について普段の様子を想起したり映像資料を見たりして、仲間とのかかわり方や仲間との活動の仕方について振り返る。

- ① 相手に合わせて動いたり、声をかけたりして、協力して活動する姿
- ② 自分の思い通りにならない場面でも、気持ちを切り替えたり落ち着いたりして活動に取り組む姿
- ③ みんなが楽しく遊べるルールを決め、守って活動する姿

これらを子どもに伝わりやすいキーワードとして、①【協力】②【切り替え】③【ルール】にまとめていく。また、子どもの発達段階も踏まえ、この単元ではキーワードを「一緒に楽しむためのコツ」として提示している。

単元の中盤では、ゲームの仕方やルールを理解し、キーワードを基に具体的な行動目標であるめあてを決めて活動に取り組んだり、活動の中でできたことをキーワードと照らし合わせて振り返ったりすることで、仲間と一緒に活動するために大切なことについて理解を深められるようにする。

単元の終わりには、単元を通してできたことを振り返り、日常生活のどんな場面で活用できるか考え、単元の学びをこれからの生活につなげていく意欲を高めていく。

本学級の自立活動では、4月にできるようになりたいことや付けたい力を話し合い、「スーパーパワーいっぱい」という学級目標を決め、その目標に沿って、学校行事や自立活動で「〇〇パワー」として様々な場面で必要になる力を学習してきた。これまでの自立活動では「聞き方」「話し方」についての単元を設定し、自分に合った方法を「ふむふむパワー」「おはなしパワー」として教室掲示の自立活動コーナーに累積している。自立活動以外の時間にも、トラブルや困ったことがあったときに、その都度話し合った内容をまとめ、「おちつきパワー」や「なかよしパワー」など、一人一人に応じた累積掲示を作っている。今回の単元の中でもそれらの掲示の中から活用できそうなことを選択することで、これまで学習したことを様々な場面で活用することを意識できるようにしたい。

## 5 研究内容にかかわって

### 1 教科の本質に基づく「キーワード」の設定及びそれを軸とした授業設計

#### (1) 児童の実態に基づく「キーワード」の設定

特別支援教育部の自立活動における「キーワード」を「自らの課題の改善・克服に向けた普遍的な価値や視点」と捉え、「児童の実態に合うこと」「活動における必然性があること」「端的で子どもに伝わりやすい言葉であること」「その単元のみならず実生活に生かすことができる汎用できる言葉であること」の4点を踏まえて、子どもと共通理解して学習を進めている。

この単元では単元の初めに普段の生活や映像資料から振り返ったことを子どもとともにキーワードにしている。

- ・相手に合わせて動いたり、声をかけたりして、協力して活動する姿→【協力】
- ・自分の思い通りにならない場面でも、気持ちを切り替えたり落ち着いたりして活動に取り組む姿→【切り替え】
- ・みんなが楽しく遊べるルールを決め、守って活動する姿→【ルール】

これらのキーワードは一例であり、子どもからの意見や、子どもの姿から単元全体を通して随時更新している。子どもとのやり取りを通して、より子どもたちが意識しやすい言葉を「キーワード」として位置付けている。

#### (2) 子どもの思考をつなぎ、達成感や学びの広がりが味わえる学習活動計画の工夫

本学級の自立活動では、子どもに提示する言葉を以下のように分類している。

- ・「単元名」(〇〇パワーチャレンジ)→〇〇という場面で必要な力を学習すること。
- ・「みんなのめあて」「活動内容」→その時間にやること。
- ・「キーワード」→〇〇という場面で大切な普遍的な価値や視点。(どのキーワードが必要になるかは子どもの実態による)
- ・「自分のめあて」→活動におけるキーワードを意識した具体的な行動目標。

これらのつながりを構造的に板書に示すことで、「日常場面」→「活動」→「キーワード」→「自分の具体的な行動」をつなげている。特に、「キーワード」と「自分のめあて」のつながりに重点を置いている。例えば【切り替え】というキーワードから考えられる子どもの具体的な行動目標は「自分の思い通りにならない場面でも気持ちを切り替えて最後まで活動に取り組む」という子どももいれば、「楽しい活動でも時間になったら気持ちを切り替えて次の活動に取り組む」という子どももいるように、1つの「キーワード」から子どもの実態や課題意識によって様々な「めあて」が考えられる。また、授業の振り返りや単元の終わりで、活動を通してできた行動やよい姿をキーワードにつなげて価値付けたり、どのキーワードにつながるかを子どもと確かめたりしている。

このように単元全体や単位時間を通して「キーワード」から「めあて」につなげたり、できたことや姿を「キーワード」とつなげたりすることで、具体的な行動の価値を深く考えることができるとともに、具体的な行動を普遍的な価値や視点とつなげることで、様々な場面でも意識できるようにしていく。

### 2 「キーワード」を軸にした指導方法の工夫

#### (1) 「めあて」を意識し達成できる学習活動、環境設定、指導・援助の工夫

- ・めあてを自然に意識できる学習活動

「レスキューゲーム」と「ころがしたまいれ」では、指示役と実行役に分かれたり、グループで一緒に取り組んだりすることで、【協力】にかかわるめあてを意識できるようにした。「なかよしボーリング」では、じゃんけんで役割を決めてボーリングに取り組むことで【切り替え】にかかわるめあてを意識できるようにした。また、どの活動でもみんなが楽しめるルールを話し合い、視覚的に示すことで、【ルール】を守ることを意識できるようにしている。

- ・めあてが達成できる環境設定

グループでの活動では、人間関係を考慮してペアリングしたり、活動の様子を見て単元の途中でも活動の負荷を調整したりしている。また落ち着いて話を聞いたり、自分たちで活動の準備をすることができるように床に座る場所や物を置く位置を示している。

- ・めあてを達成し、実感できる指導援助

めあてが達成できた場面で即時評価をしたり、振り返りで写真をもとに価値付けたりすることで、できたことを実感できるようにする。また、ゲームをクリアするごとに「いっしょパワーメーター」に「いっしょパワー」(ボール)を入れ、単元を通して仲間と楽しく活動できたことを視覚的に示し、できた実感がもてるようにしている。

6 本時の展開 (8/10時)

<p>全体のねらい</p>	<p>【協力】【切り替え】【ルール】のキーワードをもとに、自分のめあてを考えたり、ゲームに取り組んだりすることを通して、自分に合った仲間と活動するための方法を見付けたり、仲間と活動することの楽しさやよさを実感したりすることができる。</p>	
<p>個別のねらい</p>	<p>2 児童の実態 参照</p>	
<p>本時のキーワード</p>	<p>【 】は本時のキーワード 「 」は個別のめあての言葉                  【協力】・・・「ほかほか言葉・声をかける・せえので合わせる」                  【切り替え】・・・「まあいっか・さっと動く・やること集中」                  【ルール】・・・「線を見る・確認する」</p>	
<p>学習活動</p>	<p>〇めあてにかかわる個別の手立て</p>	<p>研究にかかわって</p>
<p>1 本時の課題や個々のめあてを確認し、発表する。                  ① 本時の全体のめあてと活動内容を確認する。                  ② キーワードをもとに本時の活動における具体的なめあてを決め、学習カードに記入する。                  〇キーワードをイラストとともに提示したり、前時や生活場面のよい姿を提示したりして、意識する姿を具体的にイメージできるようにする。(全)                  2 活動準備をする。                  〇物の場所を視覚的に示すことで、見通しをもって準備できるようにする。(CDB)                  〇一緒に持ったり、繋げたりする道具を用意することで、自然に協力の姿が現れるようにする。(AEFG)                  3 「レスキューゲーム」をする。                  ① 人質役とレスキュー役に分かれ、レスキュー役が一人ずつ「すいかわり」の要領で爆弾の解除コードを切る。                  ② レスキュー役がすべてのコードを切れたらチャレンジ成功                  ③ 「いっしょパワーメーター」にチャレンジ成功した分の「いっしょパワーボール」を入れる。※以後の活動も同様に行う。                  〇指示を出すときの言葉や言い方について相手意識をもった言い方をすることについて確認する。(AEFG)                  〇ペアで一緒に指示を出すことで、仲間と一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。(CD)                  4 「なかよしポーリング」をする。                  ① じゃんけんで「投げる役」「セット役」「球拾い役」に分かれる。                  ② ピン1つで1ポイントとし、制限時間内にポイントを獲得できたらチャレンジ成功                  〇じゃんけんの結果でどんな役割になってもがんばる姿を価値付ける。(BCD)                  〇「投げる役」への応援の仕方や、「セット役」「球拾い役」に対するお礼の言葉など、相手を意識した言葉がけの確認をする。                  5 「転がし玉入れ」をする。                  ① 大きな転がし迷路をグループごとにみんなで操作して行う。                  ② 制限時間内に何回も行い、ゴールできた分が「いっしょパワーメーター」に加算される。                  〇必要に応じて教師も手伝う。(C)                  〇指示を出すときの言葉や言い方について確認する。(AEFG)                  6 本時の学習を振り返る。                  ① 自分の学習カードに ◎・○・☆ で振り返りをする。                  ② がんばったことや楽しかったことを発表する。                  〇一人一人のめあてを意識して活動する姿を価値付け、「みんなで楽しく」につながったことを実感できるようにする。(全)</p>	<p>〈研究内容1にかかわって〉                  ・キーワードをもとに、今回の活動のめあてを決めることで、子ども自身が「仲間と活動すること」にかかわる目指す姿を段階的に具体化できるようにする。                  ・「全体のめあて」「キーワード」「自分のめあて」のつながりを子どもが意識できるように構造的に板書に示す。                  ・単元の中での様々な活動の中でも、キーワードをもとに自分のめあてを考えていくことで、単元を通した学びとして意識できるようにする。                  ・自分のめあてやキーワードを累積掲示で継続的に示すことで、自分に合った「仲間と活動するためのコツ」として定着できるようにする。                  〈研究内容2にかかわって〉                  ・活動内容を板書に位置付けたり、準備の位置や、自分の活動する場所が分かるよう目印を付けたりすることで、見通しをもち、安心して活動できるようにする。                  ・それぞれのゲームに「キーワード」にかかわる具体的な姿が現れるように意図して活動を設定する。                  ・対戦ではなくみんなで一緒に挑戦する形式をとることで、「仲間と活動すること」に集中できるようにする。                  ・ミッションをクリアするごとに「いっしょパワーボール」をためることで、仲間と活動できたことを視覚的に示し、達成感を得られるようにする。</p>	